

来週の市場とレート予想

	3/12(月)	3/13(火)	3/14(水)	3/15(木)	3/16(金)
無担保O/N			△0.085% ~ 0.001%		
銀行券	+ 1,100	トシ	トシ	トシ	△ 1,000
財政他	△ 9,300	+ 1,000	+ 3,000	△ 18,000	+ 4,000
資金需給	△ 8,200	+ 1,000	+ 3,000	△ 18,000	+ 3,000
主な要因			源泉税揚げ	国債発行・償還(2年)	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,300 国債補充供給 + 300				貸出増加支援 △ 11,800
オペスタート	共通担保(全店) + 1,200 CP等買入 △ 600 ETF買入 + 900				
(日本)	法人企業景気予測調査 (1月-3月期、内閣府・財務省)	企業物価指数(2月、日銀) 営業毎旬報告 (3月10日現在、日銀) 保有する国債の銘柄別残高 (日銀) 国庫短期証券の銘柄別買入額 (日銀)	金融政策決定会合の議事要旨 (1月22、23日分、日銀) 機械受注(1月、内閣府)		
(海外)	米 財政収支(2月) 欧 ユーロ圏財務相会合 (ユーログループ)	米 消費者物価指数(2月) 欧 EU財務相理事会	米 小売売上高(2月) 米 生産者物価指数(2月) 米 企業在庫(1月) 欧 ユーロ圏鉱工業生産指数(1月) 欧 ドラギECB総裁、講演 (フランクフルト)	米 ニューヨーク連銀製造業景況指数 (3月) 米 輸入物価指数(2月) 米 新規失業保険申請件数 (10日終了週) 米 フィラデルフィア連銀景況指数 (3月) 米 NAHB住宅市場指数(3月)	米 住宅着工件数(2月) 米 鉱工業生産指数(2月) 米 求人件数(1月) 米 ミシガン大学消費者マインド指数 (3月、速報値) 欧 ユーロ圏消費者物価指数 (2月、改定値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.060
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.120

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初360兆6,200億円から始まった。その後は国庫短期証券、国債買入オペを主に増加し、364兆8,500億円を越えた。無担保コールON物は、週を通して調達ニーズが弱く落ち着いた地合だった。同加重平均金利は週初、△0.054%から始まり、その後は△0.057%～△0.053%のレンジで推移した。週末である9日には△0.061%まで低下した。また、地銀業態による試し取りが複数散見された。ターム物は1W～2W物を中心に△0.035%～△0.025%での出合が散見された。8日、9日には日銀金融政策決定会合が行われ、金融政策の現状維持が決定された。同日、日銀は日銀当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率について、3月積み期間は23.5%、4月～5月積み期間は27.0%とすると発表した。来週の主な予定は、国内では日銀金融政策決定会合の議事要旨(14日)、1月の機械受注(同日)、海外では2月の米国財政収支(12日)、2月の米国消費者物価指数(13日)、ドラギECB総裁講演(14日)、2月のユーロ圏消費者物価指数(16日)などがある。

＜CP＞

今週の入札発行総額は約4,600億円で、週間償還総額の約5,600億円を下回った。一般事業法人は、決算期末要因から償還された銘柄が散見された。発行レートは、期越え物に対してディーラーのニーズが強く低下地合い、期内物では浅いマイナス～0%近辺での出合いとなった。6日に、CP等買入オペが5,000億円度でオファーされ、入札結果は按分レートが△0.013%と、前回(2/23:△0.007%)比低下した。来週の償還総額は、約1兆300億円となっている。5・10日発行があるものの、一般事業法人の発行ニーズは期越え要因からやや後退しており、償還超となるだろう。発行レートは、期越え物については、ディーラーの購入ニーズが強く低下地合い、期内物では、0%近辺の出合いを予想する。CP等買入オペが、13日にオファー金額(5,000億円程度)で予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.250 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

＜TDB＞

7日に行われた国庫短期証券6M第743回債の入札結果は、最高落札レート△0.1543%(前回債△0.1454%)、平均落札レート△0.1623%(前回債△0.1495%)となり、前回入札から利回りが低下した。8日の同3M第744回債の入札結果は、最高落札レート△0.1824%(前回債△0.1944%)、平均落札レート△0.1976%(前回債△0.2112%)で、利回りは、前回入札から若干上昇した。週末のセカンダリー市場は、新発3M物が△0.19%近辺、6M物が△0.16%近辺での出合が見られた。

＜レポート＞

足許GCは週初△0.15%～△0.16%で始まり、週央にかけて△0.10%台後半～△0.20%近辺まで低下する場面も見られた。短国6M・3Mの発行が重なった12日受渡しでは△0.11%近辺まで上昇。週末には△0.12%～△0.13%に小幅低下し越えた。SC取引では5年134回債のbidが多く、週初△0.30%近辺の出合い。7日の国債買入オペ後は△0.40%台の出合いが続いた。10年349回債は△0.20%台半ば～後半で取引されていたが、週後半には△0.10%台半ばに上昇した。その他2年383・384・385回債、5年133回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348回債、20年162・163回債、30年56・57回債、40年10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。